

いじめについて

テーマ設定の理由

最近テレビなどで中学生や高校生がいじめが原因で自殺したというニュースを耳にし、とても他人事とは思えず、このテーマにしました。

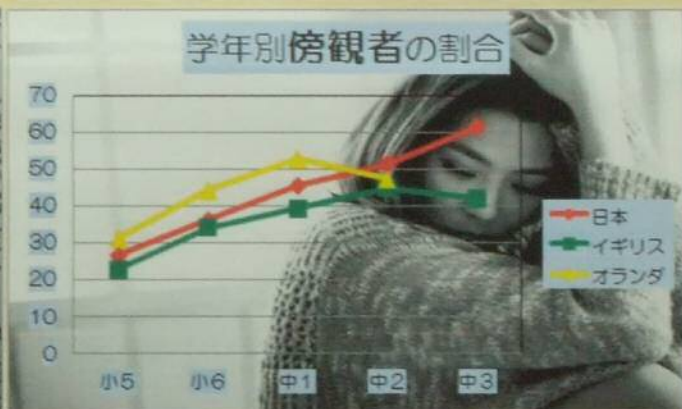
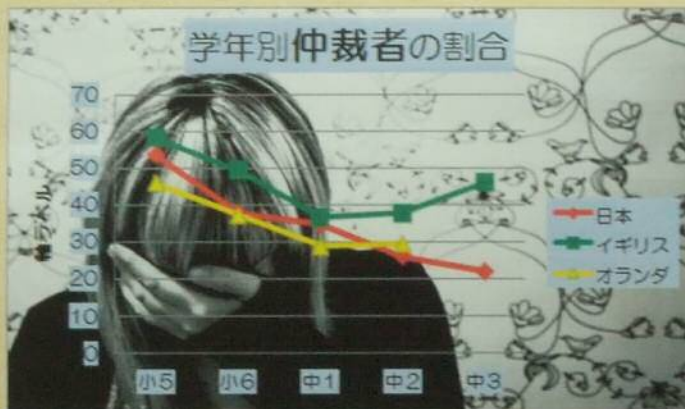


学年別いじめの件数

文部科学省の調査では、中学1、2年生の間にあることがわかります。特に男子中学生のいじめは「深刻化」しやすいことが指摘されており、頻繁化・長期化するほど、被害生徒の辛さが倍増してしまいます。

いじめが発生しやすい月

長期休暇が終わり、学期が落ち着いた頃にいじめが増加しているのがわかります。特に2学期は、学期の期間が最も長く、行事も多いため集団行動が増えます。一学期の延長で行われるいじめも多いので、より一層の注意が必要でしょう。



いじめの仲裁者と傍観者

いじめには常に、「いじめっ子」「いじめられっ子」「観衆」(周りではやし立てる者)「傍観者」(見て見ぬふりする者)が関わっているという見方にのっとれば、友達に止めてほしいというのは、要は「傍観者」を減らし、言うなれば「通報者」「仲裁者」を増やしてほしい、ということになります。

いじめの発生場所

休み時間や昼休みなど、教師の目が届かない時間帯や場所で、いじめは起きやすくなります。教育者は、こうした「いじめスポット」を把握することで、重点的に注意を払うことが重要になります。



まとめ

いじめは私達には関係ないと思っても、知らず知らずのうちにどこかで行われているので、傍観者にならないように、気をつけていきたいと思いました。